

健康登山19: 周辺の山11 (日野岳・天下峰・喜撰山・槇尾山)

コース	地下鉄石田駅 3.2km/87	供水峠 0.2km/6	日野岳 0.9km/24	天下峰
	2.8km/47	巡視路入口 2.3km/47	喜撰ダム 1.3km/41	喜撰山 2.9km/57
森林公園槇尾山 1.6km/40	天ヶ瀬ダム 3.3km/46	京阪宇治駅		
水平距離	18.5km			
水平換算距離	19.8km			
累計高低差	登り1027m、下り1024m			
標準歩行時間	6 : 35			
実績歩行時間	6 : 30			
	断面図			



山行報告

山行日 2006・12・7 (木) 天候 曇のち雨 参加者 7名

石田駅8:20 日野誕生院8:46 供水峠9:47 日野岳9:54 天下峰10:17 府道242号  
 行動 10:43 巡視路入口11:13 車道養鶏所11:48 喜撰ダム12:12~45 喜撰洞13:02 喜撰山13:15 槇尾山14:13 天ヶ瀬ダム14:57 興聖寺15:31 京阪宇治駅15:48

記録

前回の東海自然歩道 石山寺～宇治の周辺の山として喜撰山等上記4山を歩いた。計画段階では日野誕生院を起点とし、名前に惹かれて天下峰と喜撰山を通り宇治駅まで歩こうと考えた。地図上にこれを通るルート設定をしたが天下峰から府道炭山、関電巡視路、喜撰山から林道の3箇所は藪漕ぎになるかも知れないと思った。歩いた結果はコース全体がよく歩かれていて立派な道になっていた。あまり知られていないがお奨めのハイキングコースである。ハイカーを通してくださる山林所有者に感謝したい。

地下鉄石田駅から車に注意しながら日野誕生院まで1.4kmを歩き、そこから山道になり方丈石を経て供水峠まで登った。峠から14分で日野岳まで往復した後、天下峰を目指して稜線を南下した。しっかりした道が続いていて難なく府道242号線まで出られた。府道を笠取第二小学校まで2km歩き、関電巡視路を通らせてもらって養鶏所のところで喜撰ダムに通じる車道に出た。車道を1.4km進むと幻想的な雰囲気喜撰ダムに着く、ここで昼食をした。高低差120mの喜撰山に登る途中、喜撰法師の石像が祀られている喜撰洞に立ち寄った。山頂から南へ尾根筋を辿って仙郷林道へ下る道も明瞭で迷うことはなかった。この辺りから雨が降りはじめ車が通らない林道を傘をさして歩き、天ヶ瀬森林公園を散策しながら天ヶ瀬ダムへ下った。宇治駅へ向う途中琴坂で知られる興聖寺にお参りし、まだ残っている紅葉を鑑賞した。このコースで登りらしい登りは供水峠と喜撰山だけで、山道はよく踏まれて明瞭で、車道歩きも少ないよいコースだった。天気予報は晴のち曇だったが曇のち雨になったのがちょっと残念だった。

周辺の山 (日野岳・天下峰・喜撰山・槇尾山)



日野誕生院  
8:48



方丈石  
9:09



供水峠の登り  
9:19



日野岳  
9:54



天下峰  
10:17



喜撰ダムと  
喜撰山  
12:04



喜撰洞  
13:02



喜撰山三角点  
13:14



仙郷林道  
13:57



興聖寺琴坂  
15:29

## 名所・旧跡ミニガイド（周辺の山：醍醐寺～本宮ノ峰・高塚山・千頭岳～石山）

石田駅付近：万葉の昔は 石田の森 といわれ石田の神(石田神社)に旅の安全を祈ったところである。『万歳よろずよにあり通はむと山科の石田のもり社の皇神に幣ぬさとり向けて吾は越え行く相坂山おおさかやまを』  
石田神社は京都市街地図では天穂日命神社とあり、石田小学校の東、森東町、森南町、森西の民家の中にある。石田東の旧奈良街道に[乳薬師日野法界寺]と[日野誕生院]の二つの古い道標がある。

法界寺：本堂は薬師堂で「日野のお薬師さん」の信仰が厚かった。昔は授乳のご利益に与るための人々の参詣で賑わったが、今は、安産祈願の札が多い。  
法界寺創建の時、日野資業すけなりが、1にん余りの白檀の薬師像をつくり、その胎内に最澄(伝教大師)刻んだ10にん位の三つの小像の一つである、先祖伝来の小像を納めたという。これが胎児を宿す婦人の姿であるとして、妊産婦の信仰を得、授乳、安産の霊像となった。  
(他の小像は延暦寺根本中堂、大原野勝持寺にあると伝える)  
薬師堂は明治37年奈良伝灯寺の灌頂堂を移したもので室町時代の遺構である。  
阿弥陀堂(国宝、鎌倉)は建保3年(1215)法界寺が全焼、嘉禄2年(1226)に再建された。緩やかなスロープの宝形造の檜皮葺の屋根は平安時代の代表的特色を示している。

日野誕生院：親鸞聖人は、日野資業の曾孫、有範の子である、法界寺薬師如来への祈願により軽い出産であったと言う。その産湯に使った関伽井の水が「産湯の井戸」として伝えられている。  
親鸞聖人9歳のとき、青蓮院門跡慈円僧正の得度式で詠んだ和歌  
『明日ありと思う心のあだ桜 夜半に嵐の吹かぬものは』

方丈石：日野山の中腹に鴨長明かものちやうめいの草庵址と伝える場所。渓谷沿いの大きな岩の上に方丈の庵(5畳位)をつくり、方丈記を執筆、此処に10年程住んで、1216年62歳で没した。死の五年前の建暦2年(1212)方丈記は書きあがった。  
方丈記は枕草子(清少納言)、徒然草(吉田兼好)の日本三台随筆として名高い。生活は「...心遠くにいたるときは、此れより峰続きに、炭山を越え、笠取を過ぎて岩間寺に詣で、或は石山寺をおがむ...」といった具合であった。  
鴨長明は下賀茂神社禰宜の次男として生れ、文芸の才能に秀でていたが後鳥羽上皇の勸気に触れ、河合神社の社司を望んでいたが果たせず、日野に隠棲した。

供水峠こうずいとうげ : 岩山の岩の割れ目から水が出ている、『お供水さん』で有名。  
空海が修行の道で、水の所望を断られ、仕方なく峠の岩の割目に錫杖をさして休息を取ろうとしたところ、水が湧き出し喉を潤したといわれる。

供水峠の伝説：諸国巡錫の空海がこの里を通過のとき、大根を洗っている女性の一人に水を一杯所望したが、汚い風体の僧形をみて「お前のような坊さんに飲まず水は無い」と断ったという。今になってお断りした地域が、その後、大根を収穫する時期十一月になると水が枯れてしまい、飲む水も無くなり、浄水タンク車で飲料水を運んでもらった事実があったという。現在は簡易水道になっている。

ユウレイ峠：日野山の北にある。戦時中に軍隊のトーチカが有り、サーチライトがあったからという。サーチライトは優先灯《ユウセントウ》といい、それがいつの間にか転訛してユウレイになったとか。峠にコンクリートのトーチカ跡がある。

天下峰てんかほう : 標高 348 ㍎天下を取った秀吉が築城した伏見城から眺めて東に 5 の地点にある山だからついた名とも。秀吉が日々眺めていた山だったかも。

長坂峠 : 戦時中は宇治と滋賀を結ぶ軍用道路であった。

長坂地蔵：炭山は昔炭焼き集落があった。文政年間(1818~30)薪炭を運んで生計を立てていた炭山の若者が、峠近くの溪流に奇妙な石があるので、路傍に運び上げたところ、高さ四尺ほどの造形であった。

その後、牛車を曳く別の男が休憩しようとして、牛車の牛の手綱をその石に繋いだところ、たちまち雷鳴が轟き俄かに辺りが暗くなり、男は金縛りになりその場に転倒して苦しんだという。我にかえって手綱を結んだ石を見ると石は地蔵尊の姿に化していた。

不敬の罪を謝したところ、天は晴れ、もとの静寂を取り戻したのであった。この奇譚に感じて人々は、地蔵尊を納める堂宇をもうけ 8 月 4 日を縁日として参詣人で賑わうことになったという。

現在は 9 月 1 日を縁日としているが、八朔地蔵盆と称して参詣人が訪れる。なお、この地蔵尊は、現在、木幡の正覚院に移されている。

喜撰山ダム：関西電力喜撰山貯水池が正式名称、広さは甲子園の十倍水深 85 ㍎。揚水式地下発電所として 1970 年に完成、夜間の余った電力を利用して水を貯水池に揚げ、昼間は水を落として発電する。従って水位は変動する。

喜撰山 : 416.0 米 三等三角点、仙郷山、宇治山 とも言われ、喜撰法師が山頂から雲に乗って飛び去ったことに由来するという伝承もある。

喜撰法師の住みか跡、歌人必見という、喜撰洞という小さな洞窟に像がある。

喜撰法師：平安時代の僧、歌人、六歌仙の一人、生没年不詳。記録は次の二首しか無い。

『わが庵は都の辰巳 しかぞすむ 世を宇治山と 人はいふなり』(百人一首)

(鹿ぞ棲む、世を憂し山、は共に掛け詞である。憂しとして住む宇治)

『木の間より見ゆる谷の蛩かも いさりに海人の海へ行くかも』

(玉葉集 400)

喜撰(茶)の狂歌：幕末ペリー来航ときに詠まれた

『太平の眠りを覚ます上喜撰(蒸気船) たった四杯で(船の数四隻)夜も眠れず』

(上喜撰は茶の銘柄で高級品をさしている)